

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 内村 朋弘さん（岩泉町）

取材担当 宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンター 昆野 有芽

岩泉町で果樹園を営む内村朋弘さんを紹介します。

就農前には県外で業界紙の取材や編集の仕事を行いながら、休日にはイベント等で、実家の果樹園でとれた果物の販売を行っていた内村さんですが、次第に生産に興味をわき、父の引退をきっかけに令和2年に実家の果樹園を継承しました。

現在は、「収穫量よりも美味しさで満足してもらえる果物を育てる」という理念のもと、りんご70a、洋なし10a、もも10a、ブルーベリー10aを栽培しています。

これまで、生産物は主にECサイトや道の駅で販売していましたが、小ぶりのものや傷がついたものを販売するために、令和6年に岩手県農業公社の新規就農スタートアップ支援事業を活用し、「コインロッカー式無人販売機」を導入しました。

無人販売機の導入により、「規格外品も低い価格設定で無駄なく販売できるようになりました。」と語る内村さん。お金の投入後に商品を取り出す仕組みであるため、盗難被害等の心配もなく安全に販売できること、新鮮な状態で消費者に届けられること等、無人販売機の導入のメリットを様々実感しているようです。

無人販売機における売上の向上に向けて、買い物袋の同梱、夜間のライトアップ等、利用者からの意見に対応し、日々バージョンアップを図っています。今後は近隣農家への貸し出し等、地域とのつながりを深めていける活用方法も検討中です。

創意工夫により一つ一つ課題を解決していくことで、内村さんの更なる経営発展が期待されます。



作業をする内村さん



令和6年度事業で導入した無人販売機
(岩泉町門上平国道455号付近に設置)